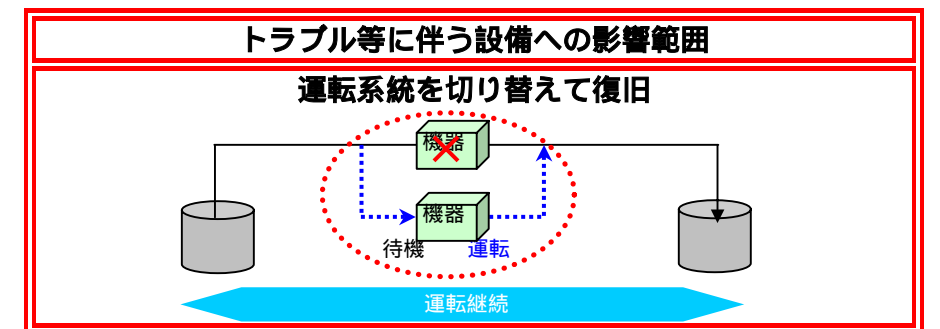
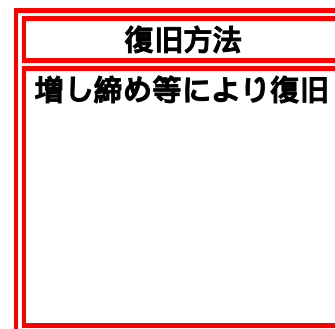
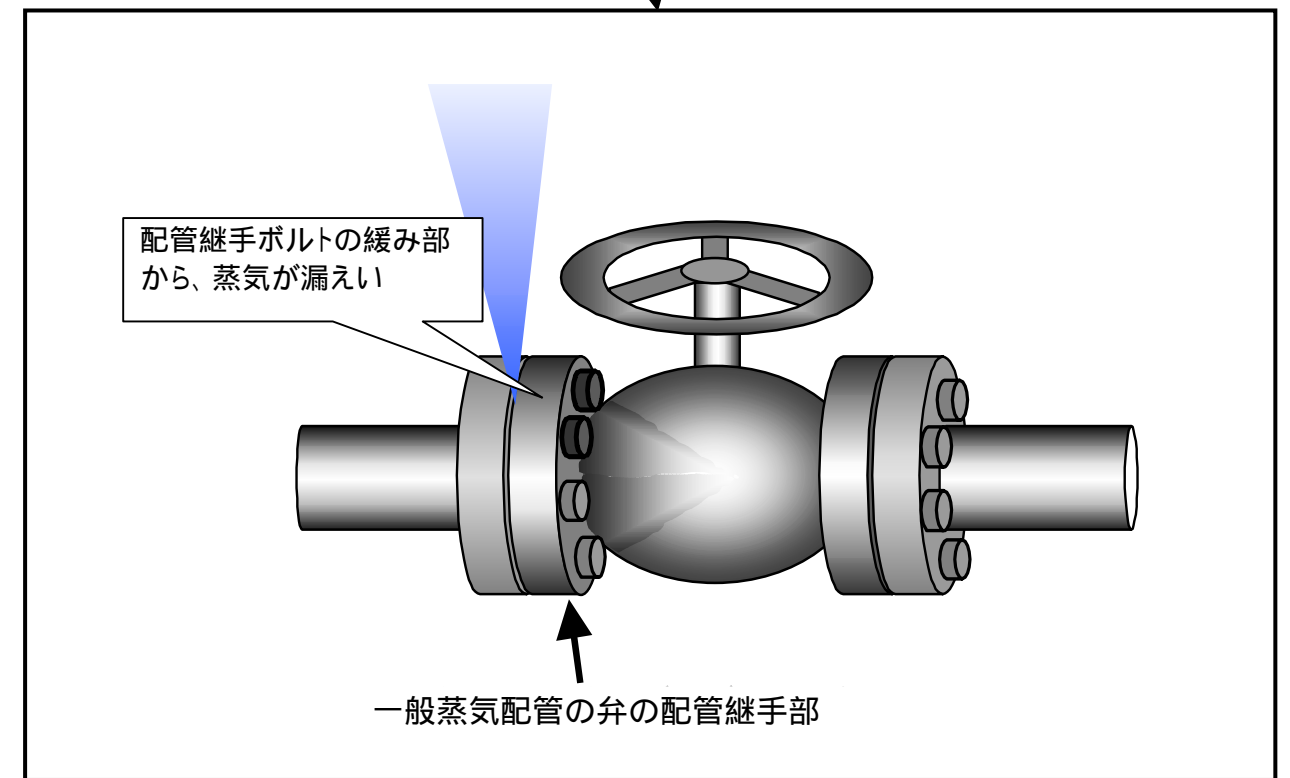
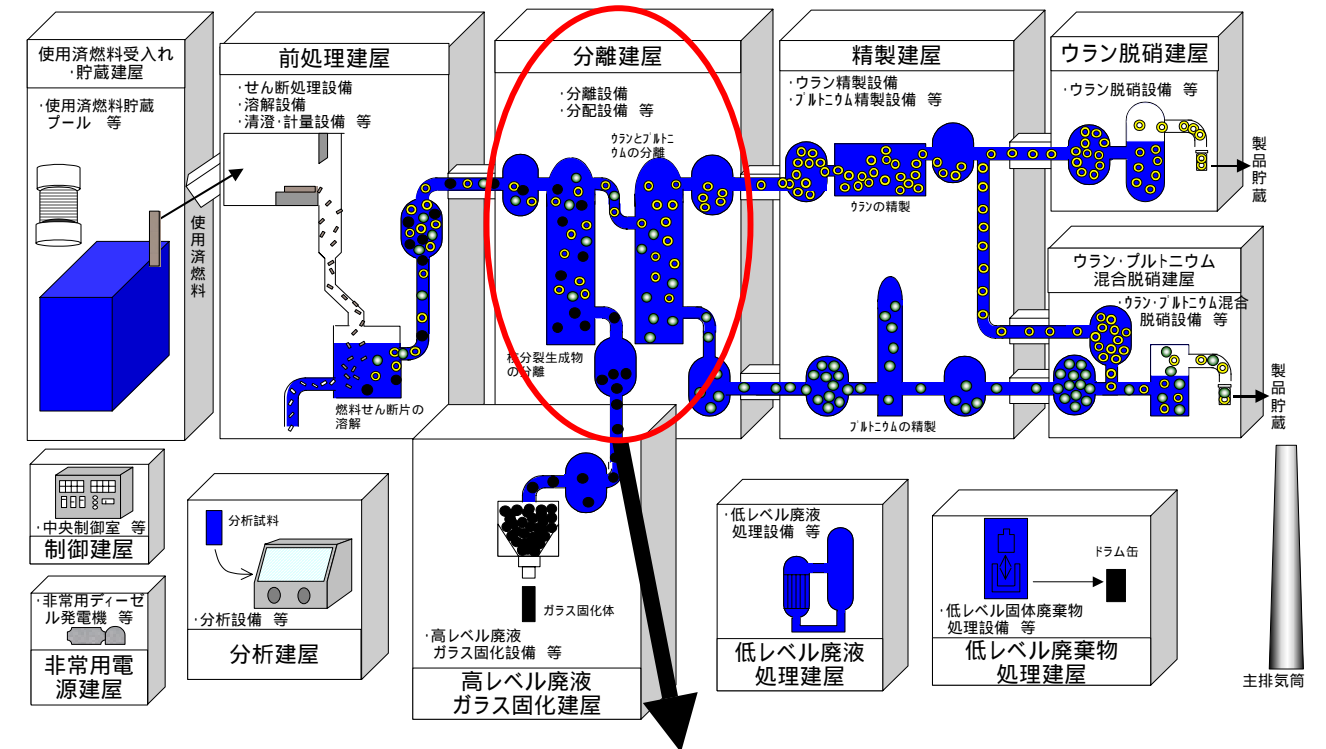


再処理工場で発生が予想されるトラブル等とその対応 (No. 2 - 05)

件名	蒸気設備の蒸気配管からの蒸気の漏えい																
事象の概要 (1) 発生場所: 機器 (2) 設備の概要 (3) 発生の状況 (4) 概要 (5) 原因	分離建屋: 蒸気配管 濃縮缶の加熱、暖房等に用いる非放射性的の蒸気を流す配管。 蒸気設備の運転中 蒸気設備のヘッダの配管継手ボルトの緩み部からの蒸気漏えい(漏えいした蒸気の凝縮水を回収したところ、漏えい量は200リットルと判明)。 * 他の建屋も含め同種の機器においても、同様な漏えいの発生が予想される。 運転を継続する中で振動等により偶発的に発生するボルトの緩み																
事象による影響 (1) 工場外への影響 (2) 安全性への影響 (3) 作業員への影響 (4) 他工程への影響	<p>工場外への影響は生じない。 放射性物質を含まない蒸気の建屋内の事象及びそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等の工場外への影響はない。</p> <p>安全上の問題は生じない。 一般蒸気は安全上の目的に使用していないため、蒸気供給弁の閉止等により漏えいを停止することで、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。</p> <p>作業員への影響は生じない。 放射性物質を含まない蒸気の漏えいであり、放射性物質による汚染、被ばくなどの影響は生じない。ただし、蒸気を取扱う設備でのトラブルのため、作業員は火傷防止のための安全保護具などを着用し、定められた保守作業手順に従い作業を行うことで、作業員への一般災害への影響を防止する。</p> <p>他工程への影響は生じない。 巡視点検、蒸気圧力の低下等により漏えいを発見(又は検知)し、多重化された蒸気供給系での漏えいの場合、システムを切り替えることにより、他工程への影響は生じない。多重化されていない部分で、漏えい停止までの漏えい量が多い場合には、当該部分につながる設備の運転に影響が生じる場合がある。</p>																
対応の概要	(1) 加熱蒸気系の配管継手部から蒸気が漏れていることを確認する。 (2) 蒸気供給弁を閉じて蒸気供給を停止する。配管継手のボルトの緩みであることを確認する。 (3) 多重化された蒸気系では、システムを切り替えて運転する。 (4) 定められた作業手順に従ってボルトの増し締めを行い、正常に保守が完了したことを確認するため、蒸気を用いた暖気運転を行い異常がないことを確認した後に正常運転に復帰させる。																
公表区分*1	翌平日に公表(ホームページへ掲載)																
情報区分*1	<table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <th colspan="3">トラブル情報</th> <th colspan="3">運転情報</th> </tr> <tr> <td>A情報</td> <td>B情報</td> <td>C情報</td> <td>ごく軽度な機器故障</td> <td>清掃・調整等で復旧可能な機器停止等</td> <td>不適合等</td> </tr> </table>					トラブル情報			運転情報			A情報	B情報	C情報	ごく軽度な機器故障	清掃・調整等で復旧可能な機器停止等	不適合等
トラブル情報			運転情報														
A情報	B情報	C情報	ごく軽度な機器故障	清掃・調整等で復旧可能な機器停止等	不適合等												

事象概要



*1 'A情報':安全協定報告事象等、または、それに準ずる事象、'B情報':事象の進展または状況の変化によっては、安全協定報告対象になるおそれのある事象等、'C情報':A、B情報に該当しない軽度な不具合、汚染等、特に連絡を要する事象